



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 JAPAN TAIIA

2906  
572  
4290

4873  
7

思



第七卷 廣瀬郡

百瀬大寺

付

御鎮座

○神階

○聚事

裕書

和州舊跡考同錄

百瀬宮

丸池

河合村

沢田川

大福寺

相基

延喜式神名帳

牧廣瀬川  
廣瀬社付御鎮座○神階○聚事  
野於野の基  
立毛基

河合村  
沢田川  
大福寺  
相基  
延喜式神名帳

第八卷 葛下郡

二上嵩

二上山

神願寺

葛城岩橋

當麻寺

付金堂弥勒

○未座石○獸面石

○

曼陀羅

○新曼陀羅

○炎上寺

奥院

付源室

上人遺像寺

石光寺

付弥勒

石佛寺

横佩基

腰折田

猪井村

付源信僧都支

水越

放光寺

朝野

寺

大和川

頭達磨寺

崇天皇陵

朝原

寺

蘿野皇子墓

天皇陵

延喜式

神名帳

龍峯寺

寺

延喜式

神名帳

第九卷 息海郡

笛吹社

付遊足

角刺宮

笛吹池

延喜式神名帳

第十卷 宇智郡

若宮社

井上皇后陵

御靈社付靈安寺事

矢田島築造

櫻井寺

良智麻呂墓

阿陀墓三基

阿陀大野

小為手山

信土山

延喜式神名帳

角田川

信土山

和列舊跡幽考第七卷

廣瀬郡

百濟宮

百済七村ノ川二町うち西室  
室塔乃後より川上ハ越智ゆく川  
後食ぬよなづれ行

百済宮ハ人皇世メ代節明天皇乃皇賓

より日本

百濟大寺

百済川より二町西ふあり川乃惠よ  
密村わりは川乃東ハ十市郡西行廣  
勝郡より三重塔一基堂一字萬選  
よあるふゆつをく廣勝郡より紀以

柏は郡のウラリムぬるみどり  
内うちより  
柏川曰百川の大寺今乃作味百川  
ゆはわも擧寺の坪石川とひの而  
乃百川にて立參野なりとりのを  
やもくは税と取る所ある郡より  
御どき聖廟乃神書大寧の縁起  
又三代實黎欽書茅よ百川有之  
十市郡とてとて御きバキ林折乃る  
市郡の税よりゆれりくにす市  
郡よわく仰藍うりべ  
通世百川とてとて廣河郡よ

ク乃寺の傳と代號よ掌と塔乃中  
間よ弘法大师乃りとせ給ひ一ノ字  
乃池わり池乃監勸ハ真よわく  
是故也よ弘法大师百川の大寺れ  
しよ代號び百川乃監宮乃御より  
けく百川の大寺と云ふ通之あ  
まけりゆそゆらめ後乃人あ  
くふをく教へ  
百川の大寺は上寶太子總疑材よ精舍等  
トの後りとゆて、而後上  
宮太子の遺訓作せ給ひ、御明天皇  
百川のやうりよまく勝ゆと云ひ起  
字十一年百川よお處所とある精舍

代寔ふう所ノクヘキ百歛天寺を影ヒメ  
後ハシ封邑三百戸良田二百町種々の賦  
室カミ施入せ給ひには時歛川の  
御ミタマノ御ミタマ都ミタマ乃社ミタマ乃本城より力主ミタマ乃  
塔ミタマ主ミタマよりぶ神ミタマ少ミタマと少ミタマ而  
くしてやがてもあらむよ寺ミタマ代燒後ミタマをり  
是ミタマよりもトメ宮廳ミタマありびよ寺ミタマ代燒後ミタマの  
時而歛川乃西ミタマ民ミタマ之宮達ミタマ乃後東ミタマ平ミタマ寺  
大通ミタマとくてもさうとあるひうミタマ又  
明ミタマ天皇乃遺勅ミタマとけ給ひミタマ天ミタマ極ミタマ天ミタマ主ミタマ也  
遙ミタマカわりミタマ極ミタマ天ミタマ主ミタマ乃遺勅ミタマ并ミタマけ給ひミタマ  
て孝德天皇寺院ミタマ御ミタマとある佛像ミタマとほう

後ハシ天皇乃後ハシよとひく天ミタマ禮天ミタマ主  
付屬ミタマわり天ミタマ禮天ミタマ主ミタマ天ミタマ天ミタマ主ミタマ遺ミタマ勅ミタマ御  
うけ給ひく伽藍ミタマ主ミタマ都ミタマ主ミタマ而ミタマて大官  
大寺ミタマと以ミタマ起ミタマ

▲  
叙述佛像ミタマハ文六ミタマ而ミタマて脇士ミタマ乃菩薩成安  
墨ミタマとくり天ミタマ禮天ミタマ主ミタマ像ミタマ御ミタマ達ミタマ乃え  
しめ錦帳ミタマ帳ミタマ御ミタマ御ミタマ念ミタマよるくりミタマ御  
玉鏡ミタマ二女天ミタマ降ミタマ佛像ミタマ御ミタマ御ミタマ供  
奉ミタマ一讚歎ミタマ御ミタマ而ミタマわりく雲ミタマ入ミタマう  
うう代ミタマうく開眼ミタマ乃目ミタマは空ミタマ空ミタマ而ミタマ  
みり御ミタマ天ミタマ小ひミタマ元慶ミタマつよわミタマ御ミタマ書  
くる墨隱ミタマ乃佛藍ミタマもくならうて唯聖廟ミタマの  
神毫ミタマのミタマあまうてあせ本堂ミタマ乃本ミタマば

八臂八刀乃毘沙門城也

八臂八刀乃毘沙門城也

丸丸丸三池

丸丸丸乃三池ハ弘法大師りと後  
より足家の池也、因原本と云ふ也乃坪乃  
方ゆて秦樂寺よりあり也家乃池は  
廣瀬郡百瀬大寺より丸家也乃池ハ  
廣瀬郡田中村よりあり也家乃池ハ  
帰と聖迷ありとく池の字より三教指  
けに詠ひも今よあ

百瀬川

勅撰名所模津圓百瀬郡蘆臨寺  
平松 由大秋園

長勝寺 七条川の南定時材より  
長勝寺又の那義寺也聖德太子也建  
立すり被壇て觀音堂一字あり縁起よ  
り推古天皇例うる御松ノ主川すを  
詔ひく柳發筋りくさくせおりゆで  
玉乃よりゆひきものに桃核もくき  
給ひく袁龍の名も裏うねば聖德太  
子御誓願よ天皇の内倉のびらせ詔ひ  
ば伽藍現く佛像代ほりうん換よ  
ばげくがゆくもせ詔ひくバ大和國廣瀬  
郡河相村よ勝地とえび山邊也あり  
て聖德寺と号すきたり玉林菩薩傳  
乃徳丸ちりくハ異なり冥寺ともう焉

河合村

泊瀬川と金桔川乃摩合うればば夜色

三国  
記

廣瀬川 河合川同ド うされ

萬葉十五首  
廣瀬川神乃ひぢりあさひきやゆめうみてくわふと  
かねて神事を廣瀬川事もせよとゆふと陸信  
草根いわせあさひ廣瀬ようく嫁<sup>よめ</sup>うひ私獨みづぞ又産子行

沢田川

川乃遙り沢田村とひふあり井畔抄よ  
大和國也わりとすれども懸馬樂經  
抄數字多所キドヨハ山城國とあり  
一往寔よわづくは沢田川廣瀬川のす  
トうぐれより

沢田川由起の近江橋<sup>アシ</sup>紀ねきび金色<sup>キセイ</sup>源也み日向

拾玉

廣瀬坐<sup>ひろせ</sup>廣瀬社 何合村すあり  
廣瀬坐<sup>ひろせ</sup>和加宇<sup>か</sup>加夷<sup>や</sup>余神社<sup>じや</sup>延喜又の御  
名<sup>な</sup>大忌<sup>だいき</sup>神<sup>み</sup>日本又御<sup>み</sup>膳<sup>ぜん</sup>膳<sup>ぜん</sup>加夷<sup>や</sup>余<sup>よ</sup>解<sup>け</sup>  
又食<sup>く</sup>猶<sup>よ</sup>鬼<sup>き</sup>穀<sup>こ</sup>神<sup>み</sup>集<sup>しゆ</sup>也<sup>よ</sup>色<sup>いろ</sup>アリテ水<sup>みず</sup>德<sup>とく</sup>  
乃<sup>の</sup>神<sup>み</sup>うりは神<sup>み</sup>ハ作<sup>さ</sup>時<sup>とき</sup>膳<sup>ぜん</sup>御<sup>ご</sup>毋<sup>む</sup>もの御<sup>ご</sup>  
み<sup>み</sup>豊<sup>とよ</sup>宇<sup>う</sup>莫<sup>ば</sup>乃<sup>の</sup>鬼<sup>き</sup>神<sup>み</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>て神<sup>み</sup>御<sup>ご</sup>宮<sup>みや</sup>小<sup>こ</sup>掌<sup>て</sup>  
拂<sup>は</sup>食<sup>く</sup>神<sup>み</sup>是<sup>う</sup>り<sup>神</sup>御<sup>ご</sup>書<sup>し</sup>

正鎮坐<sup>まこと</sup>ハ天年<sup>てんじ</sup>天皇四年四月小竜田廣瀬坐<sup>ひろせ</sup>社<sup>じや</sup>御<sup>ご</sup>修<sup>しゆ</sup>日本又ハ竜田明神乃<sup>の</sup>死<sup>し</sup>よわづくは天年<sup>てんじ</sup>天皇四年より延喜七年迄<sup>まで</sup>元一千五百

神降<sup>こう</sup>天貞觀元正月廿七日正一位

本稿

口

卷七

二

古事記天武天皇五年より下めて御坐りあり紀本  
 廣瀬彦國ニ神乃參拜是月四日七月留置也  
 爰中折西宮折新日本紀等より御日  
 本紀より四月朔日と凡てより星作より  
 めまくば山岳乃水變じてあま紀水となり而  
 繼うる源ひ祐小きつひ城之丸今義解延喜  
 千大忌祭一座庚午社七月祝詞曰廣瀬能  
 川合尔稀辭竟奉流皇神乃御后半  
 白久御勝持苗若宇加乃賣能年登御  
 者白里中畧將作興都御歲半  
 來穂尔皇神乃成幸賜者初德者汁  
 積星秋祭尔奉年皇神前尔白賜登  
 頸千稻八十稻尔引居半如梅山お  
 積星秋祭尔奉年皇神前尔白賜登

宣  
延喜

廣瀬野

也以

天武天皇十年十月廣瀬野より

詔ひしんとて行實成してゆせ行幸大之  
ありりともももまつりわらびりきり頼聚

大福寺

著尾村より寺領三十石真言家

滿瀬山大福寺は波入聖徳太子乃所  
建立み波入薬師如来と之爲  
弘法大師滿瀬の釋天勸請あり  
よりは山号あり

牧野墓

廣瀬村より三十町ばかり西より而  
よ莫邪<sup>モカ</sup>墓とひく莫邪乃瀬乃  
ぬることをくりて不<sup>ハ</sup>をせばつうり  
サヌ<sup>ハ</sup>牧野<sup>ハ</sup>牧野乃らみゆき一<sup>ハ</sup>所  
寝みて莫邪<sup>モカ</sup>とひくふるみに  
くらり因<sup>モカ</sup>

牧野墓ホウセイ大皇大廟<sup>タケミカツチ</sup>先祖氏民大和國  
廣瀬郡牧野墓ヒロセ大皇大廟<sup>タケミカツチ</sup>先祖氏民大和國

延喜

成相墓

牧野墓乃十町ばかり東小ありて墓  
乃くらり陵<sup>ミコト</sup>よりおひりおひり<sup>モカ</sup>墓  
の後東西よりへは祀<sup>マサニ</sup>するより  
て成相乃名ある

成相墓ハ押坂彦人大兄皇子大和國廣瀬  
郡<sup>モカ</sup>有<sup>アリ</sup>延喜人王世一代敏達天皇の皇子  
舒明天皇乃父也

三立園墓

牧野墓成相墓乃五町ばかり南小  
あり右三基乃墓鼎乃是乃どし  
墓乃くらり陵<sup>ミコト</sup>よりおひりおひり<sup>モカ</sup>墓  
乃墓乃けん<sup>ハ</sup>後<sup>ハ</sup>より<sup>ハ</sup>てき  
三立園墓ハもく市<sup>モカシ</sup>皇子大和國廣瀬郡  
有<sup>アリ</sup>延喜人王四十代天皇天皇乃皇子  
なり

廣瀬郡神岩帳立座ヒロセ延喜

廣瀬坐  
讚波神社  
穗雷余神社  
於神社

加宇賀賣命神社

櫛玉比賣食神社

和列舊跡幽考第十七卷

和列舊跡幽考第十八卷

葛下郡

二上嶽

二上山とも以て葛城山乃因より  
二上嶽坐豊布都靈神社亦名走雷也

記南卷

大將軍坐大國龜る圓津神同

二上山

二上嶽同山井蛭跡麁字若齋二上山號中園よ

同若齋

大津坐ゆ乃尾とづらヒ二上山より化し

葬ひの附大來。皇女よりみ給ふ歌二首

万葉

うほそれ人ある想やぬ自らハ二上山詩と云  
本道もそ妹山もとく御二上山を嫌もあれば

大坂山平家船合  
秋毫も二上山ありあづけ船をよそにめり  
勅使船合

後惠法師

### 大坂山

二上山同山異名蓋里より大坂村と云ふあり自  
本紀より大坂山乃石城運びとあるも云  
万葉  
大坂代長部と云ば二上より來る事也  
崇神天皇御宇十年九月帝御子御子をもむを  
率領安泰の山背圓より軍若代小平也  
良政と號てもさうあり焉乃者圓媛ハ大坂と云  
て號ともすんと云ひて裏軍み十役行慶余  
桃竹ひく終よ吾田媛と計り日本

### 神願寺

元日本

### 二上山神願寺

帝王年

えまくらうど

### 葛城岩橋

古襄記曰役行者二上山嶽より神山よ  
いわゆつて石橋代りてうそとぞり今まく  
金剛山乃神のゆゑもくとぞり今まく  
峯小岩獨れの徳のこまくり僧ふう乃死  
とゆき橋死とゆき死とゆきはゆき  
峯獨れ役行者うげりれの峯うち金峯山  
乃通跡よ峯獨れけりんとぞり神は  
命代うけ橋よりうづくの峯れ一言を神  
命代くとくんふくうりきれば盡役とぞりう  
死とぞり橋りうり橋とりてたび行者  
うりて一言を神と呪縛すく渾名

ひむぎりは筆を書くふ仰ればよし器  
拾遺後拾遺 箕鷄の鳥乃勢りも猶は也一財津紀かいつノ御神みことの神たま 參人  
中絶なかれす鳥鷄山乃鳥鷄とりの字なまこをもとぞあひけ相摸

二上山万法慈院まんがじ御林寺入いりハ嵩麻寺たかまとモ  
竹麻呂古親王たけまろ乃ゆ建立たてうり才おほめに推すすむ天  
皇乃沖宇おきや女年めのと河内圓山田かわち郷ごうよゆ建立たて而  
しくて万法慈院まんがじ伽藍がらんめてゆりた其  
而ゑの今乃味曾えいざ越こしうり桜さくら御林寺ごりん乃ゆ建たて役  
小角こく法神ぼくと勸すすめありて勤修きんしゅ乃勝まさ也わくし  
う天年あまと天皇白圓しらまつ二年にねん麻呂古親王まろ陽夏ようかを  
勸すすめ也ゆき河内かわち万法慈院まんがじと家いえの元  
ふうけふうけ猪いのひろんひろんの心こころありありときときお天あま天

皇よ養國むくに御強ごきょう也ゆき後ごのご靈復れいふ代だい數感  
ゆくゆくて麻呂古親王まろ刑邪けいや親王しんのう御初使ごしょしと  
多く役えん小角こく乃の御ご小角こく也ゆきくく小角こく御  
役えんうけうけよりあび宅たて比ひ二室にしつみにありた岡  
十年じゅうねん寺てらととうりとうりくく回まわめめ御林ごりん  
寺てらと号いささききより御ご鄰となり乃の導師どうしと琴瀬ことせ  
僧正そうじや白圓しらまつ十じゅうより逃おと窓まど八年八年壬午壬午  
于年ある丙辰みへん御文ごぶん當麻寺とうま御ご名な御ご御ご御ご御ご御ご  
國くに見み真人じんじんととりあり祖父そふ又また麻呂古親王まろ乃の  
殺さまうきまうきバ今更いまさら殺さめめと守まつととあさん  
ととて當麻寺とうまと改か名なありととぞ御ご名な御ご御ご御ご御ご  
金堂こんどう御ご勸すす善ぜんのの丈六じょうろく如ご佛ぶつうり佛胸ぶつきゆ  
一擧いちき奉まつ御ごの孔こう莊じょう明王めいのう像ぞうと網あみうり桜さくら

孔養助主は役小角大拳三重乃激乃上よ  
おく筋骨骨代からむももたひうる銓右ひ  
小獨鉢と持たりあやしもふ動かすよい乃  
アーラム波音三生乃骨ぞうけ山よどと  
きま車七生よどよどりとさりあらわば  
とく獨鉢ととりて汚もとまきし像うち  
冷ほ大拳三重乃激よ納めきるやぞ堂  
門の靈佛もあらへよふとあわべに也又  
金堂乃示よ一言もぬ御神乃末座乃石又  
獨羅乃門の石に然野擁魂氣向乃石うち  
竹堂萬法よりへ

▲曼陀羅堂支曼陀羅ハ模佩右大臣豊成  
乃娘中將局法如乃誓願小焉して西方

の教主化人とあらわれ蓮名紙もく一葉よぞう  
わうりきくえひを能ひ淨土乃變相あり而世  
あぐ獨敵とく一間西ありくうりくハ新書又  
山上人函蓋上人乃折ふありう乃變相の平品  
上生と中品中生乃中間よ獨著乃豫起四  
百十三字わり其初曰  
此大曼陀羅者人王四十六代帝孝謙天王政也  
依中將局願織變繒圖顯莊嚴是則庶離穢惡  
境界求願西方極樂世界自茲道心堅固一食  
長齋天平寶字七年六月十九日无着世間參  
籠此寺但有淨土經書寫願自去寅年夏六月  
時時來此塔稱弥陀行住坐卧偏敬至鳥呼  
懸懶二如來之誓約運思三菩提之法輪故尋

花色厭女身捨金衣祈无生於人間不見貪落  
於鬢髮久失天之雲志存明累依之禪尼一人  
人不圖來以蓮爲第寺異角穿井鑑高乾元水  
之土如志願一修得之成五色然間同來一人織  
女執絲寄堂乾角造織阿弥陀淨土變一鋪又  
寫繡讚淨土經一千卷深須戴受持以縷繡百  
袋入之縱使於未來世雖序端之見聞於一佛  
土爲淨業之主伴此變相者不簡親疎爲憂患  
者顯之皆蒙授記有得益之功今應欲拜生身  
之願織觀無量壽經曼陀羅初文爲序起惡指  
掌善分定散入失利夫人清淨室說一乘來尊  
提希女莊嚴宮教西方今爲中將局願弥陀現  
亦然冀臨終正念而傾西夕見佛早則預弥陀  
曼陀羅九百十餘歲已死延寢年  
中亦或而坐靈隱山中或起參參鬼神游  
坐或坐或坐或坐或坐或坐或坐或坐或坐或坐  
新曼陀羅としきりよりのぞみくらぎ眼  
眼よ深じて絶え見るが表奥師寺あま  
さ衣と墨と際傳來淨か乃事とぞきり  
きりぬ舊軸は西庄より納充遺物。は  
新曼陀羅としきりよりのぞみくらぎ眼  
新曼陀羅八十年寢字七百より四百  
十年と

花色厭女身捨金衣祈无生於人間不見貪落  
於鬢髮久失天之雲志存明累依之禪尼一人  
人不圖來以蓮爲第寺異角穿井鑑高乾元水  
之土如志願一修得之成五色然間同來一人織  
女執絲寄堂乾角造織阿弥陀淨土變一鋪又  
寫繡讚淨土經一千卷深須戴受持以縷繡百  
袋入之縱使於未來世雖序端之見聞於一佛  
土爲淨業之主伴此變相者不簡親疎爲憂患  
者顯之皆蒙授記有得益之功今應欲拜生身  
之願織觀無量壽經曼陀羅初文爲序起惡指  
掌善分定散入失利夫人清淨室說一乘來尊  
提希女莊嚴宮教西方今爲中將局願弥陀現  
亦然冀臨終正念而傾西夕見佛早則預弥陀  
曼陀羅九百十餘歲已死延寢年  
中亦或而坐靈隱山中或起參參鬼神游  
坐或坐或坐或坐或坐或坐或坐或坐或坐或坐  
新曼陀羅としきりよりのぞみくらぎ眼  
眼よ深じて絶え見るが表奥師寺あま  
さ衣と墨と際傳來淨か乃事とぞきり  
きりぬ舊軸は西庄より納充遺物。は  
新曼陀羅としきりよりのぞみくらぎ眼  
新曼陀羅八十年寢字七百より四百  
十年と

年小院參と爲く乃後順德院乃山宇保  
延二月十日小勤行と參と同四年阿波國  
浦庄にて總請乞うり同一年六月廿三  
日小切うりぬ盛工ハ良賀源印源敷<sub>源</sub>眼  
鋸文ハ代理太史藤原朝臣行能<sub>行能</sub>  
▲窓上ハ源義年中<sub>源</sub>大よ金堂講堂二基。  
塔鐘樓徑益所食子よりとすり也以て<sub>也</sub>も  
曼陀羅堂ノ裏<sub>裏</sub>角<sub>角</sub>よやけにひづるの氏  
クシ小浦ゆり江百<sub>百</sub>奉建立<sub>奉</sub>來也矣す

真院

真院社生寺乃源室上人乃遺像<sub>上人</sub>代  
乃開眼四十八箇<sub>箇</sub>小藏經<sub>經</sub>像<sub>像</sub>而<sub>而</sub>  
淡陽東山智恩院より入なりて年序

獨後ひきるが或夜爰ふゆゑ<sub>ゆゑ</sub>を後ひく我  
魏<sub>魏</sub>よ釘<sub>釘</sub>ばく此<sub>此</sub>をあり吾<sub>吾</sub>懶<sub>懶</sub>也<sub>也</sub>びく<sub>びく</sub>也  
さり<sub>サリ</sub>望<sub>望</sub>朝拜<sub>朝拜</sub>礼<sub>禮</sub>ぞく<sub>ぞく</sub>誠<sub>誠</sub>少<sub>少</sub>細<sub>細</sub>よ竹<sub>竹</sub>釘<sub>釘</sub>その  
正<sub>正</sub>を<sub>を</sub>ひとあく仰<sub>仰</sub>くてね死<sub>死</sub>ゆき<sub>き</sub>ど血<sub>血</sub>アリ<sub>アリ</sub>  
新<sub>新</sub>、<sub>新</sub>兵<sub>兵</sub>肉<sub>肉</sub>身<sub>身</sub>のど<sub>ど</sub>入爰<sub>爰</sub>乃<sub>乃</sub>装<sub>装</sub>わ<sub>ハ</sub>り<sub>ハ</sub>我本  
師<sub>師</sub>も當庵寺<sub>當庵寺</sub>乃<sub>乃</sub>曼陀羅<sub>曼陀羅</sub>うりう<sub>う</sub>みに<sub>に</sub>う<sub>う</sub>也<sub>也</sub>  
そへよ<sub>よ</sub>う<sub>う</sub>乃<sub>乃</sub>曼陀羅堂<sub>曼陀羅堂</sub>乃<sub>乃</sub>乾<sub>乾</sub>ハ八功池<sub>功池</sub>う<sub>う</sub>  
くく<sub>くく</sub>うせ乃<sub>乃</sub>青蓮<sub>青蓮</sub>ありと<sub>と</sub>く<sub>く</sub>ひく<sub>ひく</sub>也<sub>也</sub>後<sub>後</sub>ひ  
蓮<sub>蓮</sub>毒<sub>毒</sub>財<sub>財</sub>お<sub>お</sub>すり<sub>すり</sub>被<sub>被</sub>小角<sub>角</sub>禮<sub>禮</sub>者<sub>者</sub>諸神<sub>諸神</sub>勸<sub>勸</sub>  
の<sub>の</sub>お<sub>お</sub>ハ清淨<sub>清淨</sub>乃<sub>乃</sub>池<sub>池</sub>う<sub>う</sub>ん<sub>ん</sub>と<sub>と</sub>て<sub>て</sub>か<sub>か</sub>と<sub>と</sub>う<sub>う</sub>う<sub>う</sub>り<sub>り</sub>ね  
ま<sub>ま</sub>げ<sub>げ</sub>比<sub>比</sub>座<sub>座</sub>み<sub>み</sub>蓮<sub>蓮</sub>あり則<sub>則</sub>堂<sub>堂</sub>う<sub>う</sub>う<sub>う</sub>遺<sub>遺</sub>  
像<sub>像</sub>と<sub>と</sub>う<sub>う</sub>け<sub>け</sub>も<sub>も</sub>う<sub>う</sub>う<sub>う</sub>り<sub>り</sub>陞<sub>陞</sub>生<sub>生</sub>寺<sub>寺</sub>是<sub>是</sub>う<sub>う</sub>り<sub>り</sub>百<sub>百</sub>奉<sub>奉</sub>

世よ燒石也以ふ奇異乃靈寶あり

石光寺

石光寺又ハ深野寺也以ふ史石光寺也天智  
天皇乃御宇御くひ光りあり官使より御て  
御宇御也後ひより三大石あり釈佛像小  
仙たりと後奏さくより三石城御勅三號よ  
そばぬめ堂城立石せ後ひより石光も  
の義あり書又深野寺と以ふ事ハ曼陀羅の  
蓮坐と云め後ひより御ておうき一ばかりあり同卷  
御著緣起よ寺翼角穿井雖まる軌毛水  
之五如志願得之成立色とわくち後  
ハ山石なり又一本乃橘あり役小角佛  
はゆとりへど抜毛ひや鑿くひくまくりが

枝葉えびりて今かわり歌

横佩墓

同卷并白當麻まきり押十金爵

横佩右大臣豊成ひしりままる乃長男階海えんの  
嫡孫正二位右大臣藤原朝臣豊成あくまりと云今より  
横佩ハ廁所乃名よからて以ふ事天平寶字  
八年よ葬さり同卷年六十二又乃後藤原  
豊成ハ天平神護元年十一月より卒そく  
後日本紀より

猪井村

當麻寺とう寺まりかす里余一宇い堂あり  
惠心院源信僧げい郡乃誕生の池いけや父ハ正親母ハ  
清原氏天慶立年壬寅歲大和國葛城くの郡ぐ  
ちくうまれ後ご正統じゆ欽けい書曰和列葛木郡

の入又續本朝體生傳曰葛上郡齋麻郷の人  
とあり御代葛上郡と在書ゆへりてあせ齋  
麻郷ハ葛下郡うり傍若齋貌曰葛下郡よ  
齋麻郷とあり若よ葛上郡ハ書寫乃わや  
まりうりんう兵は西誕生乃也うりべに齋  
僧都乃侍も研書續本朝體生傳齋主集  
集記よくうりわり

腰折田

高まか仁天皇七年齋麻邑よとがのとれを  
れ人あり若役齋麻蹶達とひづり角比刺  
鉤くどとのべぬふとやそくあきご世の  
中よ秋よあうべしんがハソトでうわんやと  
心よせりひ洞くよあぐ色くうりされ天皇うれ

ふわす勢うんか人わりや良進よんをかく候入  
國くにか雲國野見宿のこの宿すく郷ごうとゆありそれこそかは  
もぐれ作つとし奏さう一けりいはふらばれ代  
めせとてその日や傍直のぞ祖長尾市おさおとほうて  
野見宿のこの郷ごうとめてと速はやとも海うみひとと  
あられかくすすひひ跡あとうちうちが跡あとよ跡あと  
速はやく脇骨わきと端はおられてお命めい絆くわすすひひり  
ううあ行ゆば蹠あわ速はやく走はし野見宿のこの郷ごうよ給たま  
りうり其色その脇わき折田くじた乃若おのわるすす日本にほん

水越

齋麻さいま乃北きたより又完まつり虫むし越こやゆを  
水越みずこあり

の通跡より聖徳太子乃ひくを繕ふ道

抄王林

### 大和川

大和國中れ川蕭何く龜游縣の南  
葛下郡乃北乃もびきと西うるゝれ  
毛多ハ河内國入り入

万葉

大和川草根流次統水衣笠也大臣也良經也雅言也朝臣也

大和川草根流次統水衣笠也大臣也良經也雅言也朝臣也

行罷乃絶を浴白川歌七首ぬ拂りみどりくさむり松本芝良經  
白鳥乃紳朝原すりたへて行罷の朝乃絶よ御茶摘雅言  
朝原 行罷乃葉大臣

月清集

行罷乃絶を浴白川歌七首ぬ拂りみどりくさむり松本芝良經  
白鳥乃紳朝原すりたへて行罷の朝乃絶よ御茶摘雅言  
朝原 行罷乃葉大臣

### 行罷

行罷乃絶を浴白川歌七首ぬ拂りみどりくさむり松本芝良經  
白鳥乃紳朝原すりたへて行罷の朝乃絶よ御茶摘雅言  
朝原 行罷乃葉大臣

### 朝野

りやまふ傍圓うわ見人乃望く朝原  
同所一街寔ふあらん處乃人乃深都

わらむちや朝の野邊を拂て出そからまよ六葉

### 蓬磨寺

蓬磨寺寺領三十石曰承光寺乃良二町ばかり

所園山達磨寺ハ聖徳太子乃飢人と參り  
竹を拂ひ拂うり蓬磨墳承光寺乃墳  
乃丈乃塔勝月上人乃延立めて聖徳  
太子と達磨乃遺像蓬磨とまくまくあり笠墨

口

卷八

八

撰集抄

又乃號

の上人同時代乃人より通要解脫上人ウ乃墳一三重塔成多々草家  
鰐内へ達磨寺モトモクニ塔と色ドヨリ監  
の逃ゆて飢人道の山マツシマよぬそり皆凡  
後山モロコシヤマととなりて後ひづらもあく太  
る飲食をあくべ衣裳とねまくられよそくせ  
すどり後ひくやもくぬまれよ則御耕  
おまてれや級照や私記曰山うううう山モロコシヤマ山モロコシヤマ  
以ひよえ乃之奈倍留也食飯モロコシヤマやとも矢たれの君モロコシヤマモロコシヤマモロコシヤマ  
無君モロコシヤマモロコシヤマモロコシヤマ食飯モロコシヤマモロコシヤマモロコシヤマ寝卧モロコシヤマモロコシヤマ

ありれ  
右ハ日本紀注ハ欽日本紀より山根と類聚圖

史やは  
走れてやまうう山モロコシヤマひよくてやぢ旅モロコシヤマあれ  
色モロコシヤマ  
いもや富小路モロコシヤマ山モロコシヤマ大義モロコシヤマ山モロコシヤマあれ  
その際モロコシヤマ強モロコシヤマその死モロコシヤマ埋モロコシヤマ葬モロコシヤマと後モロコシヤマは  
亦み縫モロコシヤマひくその死モロコシヤマ埋モロコシヤマ葬モロコシヤマと後モロコシヤマは  
縫モロコシヤマ目モロコシヤマ強モロコシヤマてう乃屍骨モロコシヤマ城モロコシヤマと後モロコシヤマは  
衣服と棺のよ不可モロコシヤマみく屍骨モロコシヤマハキモリ  
きりもくぬれば時乃人モロコシヤマとあゆモロコシヤマみ聖化  
聖化モロコシヤマあきる事モロコシヤマあれ実モロコシヤマもんモロコシヤマと以モロコシヤマあ  
ううううモロコシヤマ紀日本今なるよ壹モロコシヤマ乃あり乃碑モロコシヤマ等  
ううううモロコシヤマうう毛モロコシヤマハ東福寺惟モロコシヤマ惟モロコシヤマ和尚モロコシヤマの

至るまことにあり

放光寺

達磨寺より押二町ぢり  
王林

萬世

五寺村と以所より碑石あり

放光寺ハ又五寺と以聖德太子御建立四  
十六ヶ寺乃因縁よのをより作<sup>ヤ</sup>卷乃會能  
よ教像<sup>ハ</sup>碑もあり後<sup>王林</sup>山靈瑞碑數  
感<sup>ハ</sup>て推古天皇<sup>抄</sup>藍沖<sup>ハ</sup>造寫<sup>ハ</sup>  
了く放光寺と号<sup>ハ</sup>と云<sup>ハ</sup>せ繪<sup>起</sup>縁

顯宗天皇陵

人皇女四代顯宗天皇ハ傍丘磐杯南陵  
大和國葛下郡<sup>ハ</sup>あり延喜又ハ<sup>ハ</sup>行<sup>ハ</sup>上陵  
とも<sup>古事記</sup>又ハ<sup>ハ</sup>行<sup>ハ</sup>上陵<sup>ハ</sup>磐築<sup>ハ</sup>上陵<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>り

帝王編年

御宇三

四月八

鉤宮

あり

後

仁賢天皇

元年

陵

より

ある

日本

延寶七年

迄

九

百

七

四

年

元

茅渟天皇陵

人皇女六代民熟天皇傍丘磐杯丘北陵大和  
國葛下郡<sup>ハ</sup>あり延喜御宇八年十二月より  
城宮<sup>ハ</sup>て<sup>キ</sup>御<sup>ハ</sup>きり後<sup>ハ</sup>城<sup>ハ</sup>繼<sup>ハ</sup>神天皇  
二年十月<sup>ハ</sup>陵<sup>ハ</sup>うぐ<sup>ハ</sup>本<sup>ハ</sup>日本<sup>ハ</sup>延寶七年  
迄<sup>ハ</sup>凡一千百七十四年元

紀

卷八

三十

本紀

和

新日

本紀

孝靈天皇陵

俗よひくせあ乃坂神のばりて馬乃坂  
とひぬ峯乃垣戸とひふすよあり東の  
あらひ一基ありハ田島とみれりとより  
孝靈天皇ハ所丘駿坂陵大狹間葛下郡よ  
あり延喜御宇七十六年二月御宇より後  
ひとと孝元天皇六十年九月け陵ようく  
する日本延宝七年迄凡一千八百九十四  
年矣

肩毬池

達磨寺良辺葦ヶ池とひありニホリや  
肩毬池ハ推古天皇十一年より日本紀  
飯豊皇女墓

飯豊皇女ハ埴日墓大和國葛下郡より延喜  
顯家天皇立年十一月崩死日本延寶  
七年迄凡一千百九十二年矣

龍峯寺

當麻寺より水車里ぢりあ世守  
村也ゆふばれも徳よりべ  
龍峯寺又ハ掃守寺とひふだき乃御代の  
皇子也やゆけじ龍と化して雪よ素  
寺代建日本峯寺と考へ給人けれど本傳  
柿下人麿墳  
柿下村乃りとりよん麿乃墳わり柿  
本寺也と云ふ室あり

柿下朝臣人麿ハ寔ニテ生キ一株ヒテ  
古墳ナリ也材危ニシムヒテ傍リヒテクル  
ト色袋を御朝野今戴傍也纏物也  
御林様葉傍本朝文辭キドモ色う乃朝臣  
乃生木代クナリトスレモ其情麿固也石  
浦乃人麿也古墳の碑據曰人麿乃此人  
孝服天皇乃聖ム天足彦國押人余世  
ヨ御ノテ故達天皇乃御宇ヨアリ  
ク乃門邊ヨ柿樹ナリ是よりうん柿下れ  
年と移ふと多くサキヨ故達天皇ハ子市郡  
磐余幸也宮ヨセリニ御キムト日本紀ヨ  
尼ムテアリ葛下郡と十市郡と別郡也  
以ヘモモモ御遠くもわらびりキギバ石

や柿本乃兵代経人キム名也傍リモシ  
又乃祖は右令集灌乃ヨシモク石見國ヨ  
家君と少人乃緩莞乃柿樹ナリ人麿代  
生人也ヒトヨリ柿下の兵モソ後リモカウの朝  
院も孝服天皇モリセム乃お多モテ傍  
リモキナリ兵也ノリ乃生キシテモキナリモ  
又或人ち承國ヨ人麿乃古墳也ううて紹  
アリゆきある内ヒキ事ヨウビトモリキ  
石見バ源上郡葛下郡吉野郡也野郡ヨアリケ  
故も人麿の墳ヨシムトセシイ傍ミ人麿  
乃事ハナツヘハメガリ近キバモジテテ  
は西乃石文ヨアリ

葛木倭文坐天羽雷金神社  
延喜

斤尾坐神社  
石園坐多久断玉神社  
長尾神社

深瀧神社  
金村神社

伊射奈岐神社  
當麻都比古神社

葛木二上神社二座  
火幡神社

葛木御縣神社  
志都義神社  
當麻山川神社  
大坂山川神社

和列舊跡幽考第十八卷

惠海郡

角刺官

忠海村より西に西行村東より東行  
村南より南行西村より少行西海  
村や皇室乃御より先  
角刺宮は人王女三代清寧天皇五年而  
御より後ひく皇太子億計王と少弟弘  
計王と少弟御修氏ゆげりわうそい後ひ  
く御位より日被御より御妹彦  
おひより御飯豊青皇女惠海角東宮めで  
匱朝東政主後ひく三びく御飯豊青  
と名号給ひ文世よ哥けりてうふ日本

やゆくへよ 日本遷や尼ニぬり ものハ見欲シテの物モノや也ハのこ  
乃よりにあは角刺カツリのまゝ乃ハ神乃カミ社カミハ秋  
日本紀ニより始マサニ神敵カミアシ豊皇ヒロヒル天皇三  
年七月角刺宮カツリノミコトノミコト而て興支カクシり、而てゆりハ  
人よくうち後ハ一イまび女メの道ミサカとありハ小  
の異ヒキうりともあらんハの後交會カウカウの道ミサカより  
幽ヨウきづりきもとすんスン日ヒ本ホン或オ又モ道ミサカも  
をれども

笛吹社アキラマ付遊尾アキラビノタラ

先アキ吹アキの神カミ乃ハ社カミりマサニ本ホン波ハそりマサニてみ  
ありハて幽ヨウきづりスル神カミ國クニ龜カニ乃ハうハと  
お奉マサニて仰アキラりマサニぞハ也ハ真義マニギ也ハ

吹簫社アキラマノ神カミハ第タマニく桂ケイ尾テや行ム瀬セ

支本集

先アキ吹アキの神カミ乃ハ社カミりマサニ本ホン波ハそりマサニてみ  
ありハて幽ヨウきづりスル神カミ國クニ龜カニ乃ハうハと

為志アシ神社カミハ第タマニく桂ケイ尾テや行ム瀬セ

支本集

先アキ吹アキの神カミ乃ハ社カミりマサニ本ホン波ハそりマサニてみ  
ありハて幽ヨウきづりスル神カミ國クニ龜カニ乃ハうハと

悲海アキラマ郡カミ神カミ名後マサニ三座ミサカ处マサニ裏マサニ

葛木空火雷アキラマ神社カミ二座ミサカ

和列舊跡幽考卷九

和列舊跡幽考第十卷

宇智郡

井上皇子陵

井上閑親王と聖武天皇乃姫宮めて孝隱  
天皇乃山妹としてゆりくさる寶龜元年光仁  
天皇の皇后よりて其後井上皇子ゆりく  
他戸親王と皇太子小史人雅ひが皇后ゆり  
心あつて宝龜三年皇后乃後ゆりく  
大和國宇智郡没官代官小史あ雅ひ  
同の年四月皇后乃皇太子ゆりくそれゆり  
一子後日室龜の年ゆり延寶七年と

九百六年秋

延暦十九年正月上内親王よ靈廟乃傳代贈  
正も墓洋山陵と号すを也紀宣下あり勅  
使ハ從み位下葛井玉うり

親表

岩宮社也山村より

岩宮は雷神よりゆき天御觸ハ井上内  
親主御著事あづきあづきを御て後よ  
ゆ産めりおのこふみあれびとてゆ産御雷神と  
ぞりんそんのゆ産乃而ば大尾郷小山ゆを傳  
それより産屋の奉とほひひきり雷神年終  
移ひくゆ母乃靈廟あづびよ兒の他戸親  
王のゆがゆき移ひ奉ゆどばくへきくめ  
ぬくろくみけくくつり帝よゆ惱とうけ人取

御寶一物よりうきめへ従うんとて神よ  
移ひて岩宮と考へ移ひれ

靈安寺  
縁起

御靈社

御靈社也并上靈廟他戸親主れゆたど  
よりけくと一人より下百姓もるやゆ  
移ひくべ世中喫くらねそ勃使と云ひ  
坐ちゆきあくせ移ひく御よゆ靈大御神也  
わづめきことゆ靈の社とゆるまさればと  
て靈安寺とぞ下

靈安寺  
縁起

本社ハ御靈并上靈廟東向

南勝<sup>ハ</sup>他戸親王<sup>向</sup>

本社三座<sup>安富</sup>一座本地<sup>ハ</sup>准胝觀音聖觀音  
千手觀音如意輪觀音<sup>ムツテ</sup>弘法大師の  
さげみく<sup>安富</sup>まきより本地堂と影

さり<sup>靈安寺</sup>

縁起

▲東奥<sup>ハ</sup>人王百二代稱光院乃ゆ守正長元  
きの秋<sup>リ</sup>夢大<sup>シカニ</sup>よわりて神社佛堂本地四亿  
乃像<sup>モ</sup>一時乃<sup>シテ</sup>すりとむりう乃像<sup>ハ</sup>の厨<sup>ト</sup>小  
山<sup>シマ</sup>を<sup>ヒ</sup>りがき<sup>ハ</sup>いううり佛<sup>ト</sup>ゆとす  
ぞ独<sup>シカニ</sup>北島唯三<sup>ミタマ</sup>乃浦<sup>ハ</sup>靈<sup>ハ</sup>大明神乃  
記<sup>キ</sup>縁<sup>ス</sup>と<sup>シ</sup>事<sup>ス</sup>て<sup>シテ</sup>安<sup>シ</sup>靈<sup>ハ</sup>大明神乃<sup>シカニ</sup>  
音<sup>ハ</sup>像<sup>ト</sup>事<sup>ス</sup>て<sup>シテ</sup>安<sup>シ</sup>靈<sup>ハ</sup>大明神乃<sup>シカニ</sup>

（人成<sup>ハ</sup>）<sup>モ</sup>さり<sup>靈安寺</sup>

縁起

矢田島蓋过

めadow村<sup>モリ</sup>八町東今井村<sup>モリ</sup>蓋过<sup>モリ</sup>有<sup>リ</sup>  
し<sup>ク</sup>す多<sup>シ</sup>多<sup>シ</sup>りぬれによめば<sup>シ</sup>やれて  
う<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>り<sup>ナリ</sup>

矢田島蓋过

者不<sup>シ</sup>康<sup>ハ</sup>成<sup>ス</sup>と<sup>シ</sup>ふものあり初<sup>ハ</sup>め<sup>シ</sup>て父<sup>ト</sup>  
と<sup>シ</sup>れ<sup>シ</sup>純<sup>ハ</sup>文<sup>モ</sup>そ<sup>シ</sup>ぞ<sup>シ</sup>そ<sup>シ</sup>ら<sup>シ</sup>被<sup>シ</sup>き<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>紙<sup>ハ</sup>作<sup>シ</sup>べ  
祀<sup>シ</sup>奉<sup>ハ</sup>下<sup>シ</sup>同<sup>シ</sup>職<sup>ハ</sup>ど<sup>シ</sup>達<sup>シ</sup>父<sup>モ</sup>と<sup>シ</sup>れ<sup>シ</sup>ど<sup>シ</sup>  
往<sup>シ</sup>みぬ<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>天<sup>モ</sup>み<sup>シ</sup>九月廿二日乃  
和<sup>シ</sup>多<sup>シ</sup>ひ<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>小<sup>シ</sup>宿<sup>ハ</sup>か<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>き<sup>シ</sup>純<sup>父</sup>と<sup>シ</sup>爾<sup>シ</sup>  
と<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>討<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>き<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>形<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>乙<sup>モ</sup>母<sup>ハ</sup>靈<sup>シ</sup>  
自<sup>ト</sup>身<sup>ハ</sup>の懺悔<sup>シケイ</sup>と<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>ね<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>矢田島の

北嶽院は原あゆうてくあげくよづり  
か 天慶五年庚辰重病ふうりてとら  
殺母に罪せしく作りをば地獄へぞれを  
れの寒爐乃角よ美因寺乃地獄をぬ  
ぢり往ひ獄卒よ康成とあひうけ  
絶すとやひより薦生きりひとうわく  
曉天國寺よゆうてうんとあうりきるよ  
福井のりうりふ地獄を來瀕ゆくで  
ふより後寺くある事あれかく  
來りて礼拝とうさんその事くそくとそ  
也蓋とつけとりきりうり蓋付乃名の其

後康成みゆうて死よすうと死體生を  
きりきり夫田寺天慶五年から延寶七年く  
自至凡七百八八年

福井

蓋付より西八町うち頃惠村乃岸  
よあり井乃傍九尺豎立る引どあせ  
ううめきり

福井寺 次五村より

福井寺ハ天慶五年半者石康成が建立  
たり天文廿二年鑄造乃鐘の鋸かく  
くらくくら

半智麻呂ハ後阿陀乃墓大和國宇智郡  
半智麻呂ハ後阿陀乃墓大和國宇智郡

ふあり 廷妻書  
天平九年七月錯見ひよの男  
りて正一位とゆばをち大内小佐  
きぐの日薨きる後日年八十  
天平九年より延寛七年九月  
本紀編年 帝王

三  
卷  
九

阿陀羅三基

一基ハ立多村より一里あり此  
方カタみあり僅カタマリよ王乃墓と云ひ川村  
より一基ハ立多村より二里有  
里東山より音野川より南乃有  
南阿肥村乃至山小あり僅カタマリよ王乃墓  
と云ふ一基ハ立多村より三十町有

阿多大野

類字名あよ大和國とあり

万葉集の高部山あり候國也どにあざれ候此處の也り  
一葉抄女山氣うらあくもかをうれめ候事よりて興事  
支本社也よとげがりり山氣のわざれ候事よりて興事

万葉集小為平乃山西山あらうるに  
安太部去小為平山の様の事と今ノ名を記す

### 信土山

澄月寺施白或紀序坐よまち之万葉集の歌  
小本道入立真立山と多く大和國乃交  
陽や今嘗新有今集の御よまち之  
てち御通よ入立催馬あ姦秘持白  
大和紀傳乃曲境や  
鶴宣朝臣大和赤打山ちうすすき弓女

のりとよ死ぬけくゆうりて傳りきりよ  
わのゆりきる汗恨傳をる小為のよあん  
主氣參人死うちの山川ふく來すけあは月を

### 角田川

萬葉集黎聚よ駿河國入立候大和國信  
立山通よあらそく同名所立山 桃

射よと鹿の信多乃山川よ我馬難家立りえ

### 肉大野

萬葉集八雲山抄す御事よ大和國と多く澄月  
寺杭曰宇智郡よあらそ  
主氣參人死の立野よ馬あてあくねまんまよま  
射よと鹿の立野よ我馬難家立りえ  
宇智郡神若帳十一座延喜

宇智比神社  
阿波比神社  
高天原震靈神社  
丹生山神社  
高天岸野神社  
丹生大雄神社

一落火見荒木神社  
尾木見神社  
背神社

